



# BEA AquaLogic™ Interaction Collaboration

インストールおよび  
アップグレード ガイド





# Copyright

Copyright © 1995-2006 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

## Restricted Rights Legend

This software is protected by copyright, and may be protected by patent laws. No copying or other use of this software is permitted unless you have entered into a license agreement with BEA authorizing such use. This document is protected by copyright and may not be copied, photocopied, reproduced, translated, or reduced to any electronic medium or machine readable form, in whole or in part, without prior consent, in writing, from BEA Systems, Inc.

Information in this document is subject to change without notice and does not represent a commitment on the part of BEA Systems. THE DOCUMENTATION IS PROVIDED “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, BEA SYSTEMS DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE DOCUMENT IN TERMS OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, OR OTHERWISE.

## Trademarks and Service Marks

Copyright © 1995-2005 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved. BEA, BEA JRockit, BEA WebLogic Portal, BEA WebLogic Server, BEA WebLogic Workshop, Built on BEA, Jolt, JoltBeans, SteelThread, Top End, Tuxedo, and WebLogic are registered trademarks of BEA Systems, Inc. BEA AquaLogic, BEA AquaLogic Data Services Platform, BEA AquaLogic Enterprise Security, BEA AquaLogic Service Bus, BEA AquaLogic Service Registry, BEA Builder, BEA Campaign Manager for WebLogic, BEA eLink, BEA Liquid Data for WebLogic, BEA Manager, BEA MessageQ, BEA WebLogic Commerce Server, BEA WebLogic Communications Platform, BEA WebLogic Enterprise, BEA WebLogic Enterprise Platform, BEA WebLogic Enterprise Security, BEA WebLogic Express, BEA WebLogic Integration, BEA WebLogic Java Adapter for Mainframe, BEA WebLogic JDriver, BEA WebLogic Log Central, BEA WebLogic Network Gatekeeper, BEA WebLogic Personalization Server, BEA WebLogic Personal Messaging API, BEA WebLogic Platform, BEA WebLogic Portlets for Groupware Integration, BEA WebLogic Server Process Edition, BEA WebLogic SIP Server, BEA WebLogic WorkGroup Edition, Dev2Dev, Liquid Computing, and Think Liquid are trademarks of BEA Systems, Inc. BEA Mission Critical Support, BEA Mission Critical Support Continuum, and BEA SOA Self Assessment are service marks of BEA Systems, Inc.

All other names and marks are property of their respective owners.

# 目次

## 1. ようこそ

このガイドの使用方法 .....	1-1
対象読者 .....	1-1
構成 .....	1-2
記述方法 .....	1-2
BEA のドキュメントおよびリソース .....	1-3

## 2. インストール要件

ハードウェアおよびソフトウェアの要件 .....	2-2
--------------------------	-----

## 3. クイックスタートの概要

インストール .....	3-1
Collaboration データベースの作成 .....	3-2
Collaboration データベース (SQL Server) の作成 .....	3-2
Collaboration データベース (Oracle) の作成 .....	3-2
Microsoft Exchange 統合への準備 (Windows のみ) .....	3-3
インストーラの実行 .....	3-3
ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトの実行 .....	3-4
MS SQL サーバーの設定 (Windows のみ) .....	3-4
Oracle の設定 .....	3-5
インストール後の手順の実行 .....	3-6
Collaboration 移行パッケージのインポート .....	3-7
移行パッケージのインポート (Windows) .....	3-7
移行パッケージのインポート (UNIX/Linux) .....	3-7
オプションの Collaboration 機能の設定 .....	3-7
Notification Service の開始 .....	3-7
Notification Service の開始 (Windows の場合) .....	3-8
Notification Service の開始 (UNIX/Linux の場合) .....	3-8
Collaboration の起動 .....	3-8

Collaboration の起動方法 (Windows の場合 ) . . . . .	3-8
Collaboration の起動方法 (UNIX/Linux の場合 ) . . . . .	3-8
Collaboration ログインの設定 . . . . .	3-9
アップグレード . . . . .	3-9
アップグレード パス . . . . .	3-9
アップグレード時のインストーラの実行 . . . . .	3-11
ポータル データベースおよび Collaboration データベースのアップグレード . . . . .	3-12
Oracle データベースのアップグレード . . . . .	3-12
SQL Server データベースのアップグレード (Windows のみ ) . . . . .	3-13
アップグレード後の手順 . . . . .	3-14

## 4. インストール

Microsoft Exchange 統合へのシステムの準備 (Windows のみ ) . . . . .	4-2
Collaboration のインストール方法 . . . . .	4-2
Collaboration データベースの作成 . . . . .	4-3
Collaboration データベース (SQL Server) の作成 . . . . .	4-3
Collaboration データベース (Oracle) の作成 . . . . .	4-4
インストーラの実行 . . . . .	4-5
ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトの実行 . . . . .	4-16
MS SQL Server の設定 (Windows のみ ) . . . . .	4-16
MS SQL Server 2000 の設定 . . . . .	4-17
MS SQL 2005 の設定 . . . . .	4-18
Oracle の設定 . . . . .	4-18
インストール後の手順の実行 . . . . .	4-21
Collaboration 移行パッケージのインポート . . . . .	4-21
移行パッケージのインポート (Windows) . . . . .	4-22
移行パッケージのインポート (UNIX/Linux) . . . . .	4-23
オプションの Collaboration 機能の設定 . . . . .	4-23
Notification Service の開始 . . . . .	4-24
Notification Service の開始 (Windows の場合 ) . . . . .	4-24
Notification Service の開始 (UNIX/Linux の場合 ) . . . . .	4-24
Collaboration の起動 . . . . .	4-25
Collaboration の起動方法 (Windows の場合 ) . . . . .	4-25
Collaboration の起動方法 (UNIX/Linux の場合 ) . . . . .	4-25

Collaboration ロギングの設定 .....	4-26
-----------------------------	------

## 5. アップグレード

アップグレード パス .....	5-2
アップグレード時のインストーラの実行.....	5-4
ポータル データベースおよび Collaboration データベースのアップグレード.....	5-5
Oracle データベースのアップグレード.....	5-5
SQL Server データベースのアップグレード (Windows のみ) .....	5-6
アップグレード後の手順.....	5-7

## A. Exchange Remote API のインストール

Exchange Remote API インストーラの実行.....	A-2
------------------------------------	-----

## B. IIS の設定および確認

Windows 2003 における IIS 6.0 の設定および確認.....	B-2
IIS の設定.....	B-2
IIS 設定の確認.....	B-4
Windows 2000 における IIS 5.0 の設定および確認.....	B-5
IIS の設定.....	B-5
IIS 設定の確認.....	B-6

## C. サイレント プロパティ ファイル

## 索引





# ようこそ

このガイドでは、BEA AquaLogic Interaction Collaboration (「Collaboration」) のインストール、アップグレードおよび基本設定を行うために必要な手順について説明します。

## このガイドの使用方法

このガイドは、Collaboration の管理者および開発者が使用することを目的としています。またこのガイドは、経験豊富な Collaboration のインストール担当者のためのクイック リファレンスとなるように構成されていますが、初めてインストールする方にとっても詳細な手順書として使用できます。

## 対象読者

このガイドは、読者がプラットフォームのオペレーティング システム、データベース、ウェブ サーバー、アプリケーション サーバー、および Collaboration のインストールに必要なその他のサードパーティ ソフトウェアの知識を習得していることを前提としています。

# 構成

- この章では、このガイドの使い方について説明し、**Collaboration** コンポーネントのインストール、導入、アップグレード、および管理の参考になるこの他のリソースを紹介します。
- **第 2 章、「インストール要件」**では、ハードウェアおよびソフトウェアの要件、その他のサードパーティ ソフトウェアの要件について説明します。インストールやアップグレードを行う前には、必ずこの章に目を通して要件が満たされるようにしてください。
- **第 3 章、「クイックスタートの概要」**では、**Collaboration** のインストール手順およびアップグレード手順のハイレベルな概要を説明します。経験豊富な **Collaboration** 管理者が **Collaboration** のインストールおよびアップグレードをすばやく行えるように、詳細な内容も記載しています。また、クロス リファレンスによって他の章に記載された詳細な手順を参照できます。
- **第 4 章、「インストール」**では、**Collaboration** のインストールおよび設定の手順を詳細に説明します。
- **第 5 章、「アップグレード」**では、**Collaboration 4.2** のアップグレード手順を詳細に説明します。

# 記述方法

このガイドでは、下記の記述方法を使用します。

表 1-1 記述方法

項目	記述方法	例
ファイル名 フォルダ名 画面要素	太字	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>Procedures.doc</b> をポータルにアップロードします。</li><li>● <b>General</b> フォルダを開きます。</li><li>● 変更内容を保存するには、[ <b>変更を適用</b> ] をクリックします。</li></ul>
入力するテキスト	コンピュータ フォント	<ul style="list-style-type: none"><li>● コミュニティの名前に Marketing と入力します。</li></ul>

表 1-1 記述方法

項目	記述方法	例
入力する変数	コンピュータ フォン ト、斜め体	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートレット サーバーのベース URL を入力してください。 例: <code>http://my_computer/</code></li> </ul>
ポータル オブジェクト名の例	斜め体	<ul style="list-style-type: none"> <li>図 5 のナレッジ ディレクトリの例は、<i>Human Resources</i> フォルダです。</li> </ul>

# BEA のドキュメントおよびリソース

この節では、BEA が提供しているドキュメントとリソースについて説明します。

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース

リソース名	説明
管理者用ガイド	Collaboration を管理および保守するための方法を説明するガイドです。 リリース パッケージおよび <a href="http://edocs.beasys.co.jp/e-docs">edocs.beasys.co.jp/e-docs</a> から電子形式 (PDF) で入手できます。
リリース ノート	Collaboration 管理者用のファイルです。当該リリースでの新機能や確認済みの問題に関する情報を提供するものです。 <a href="http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/">edocs.beasys.co.jp/e-docs/</a> から電子形式 (HTML) で入手できます。
開発者用ガイド、記事、API 関連ドキュメント、ブログ、ニュースグループ、およびサンプル コード	これらの開発者用リソースは、BEA dev2dev サイト ( <a href="http://www.beasys.co.jp/dev2dev/">www.beasys.co.jp/dev2dev/</a> ) から入手できます。AquaLogic User Interaction を使用してカスタム アプリケーションを構築する方法や、AquaLogic User Interaction 製品およびその機能をカスタマイズする方法について説明しています。
導入ガイド	ビジネス アナリストやシステム管理者向けのドキュメントです。BEA AquaLogic User Interaction の導入計画の策定方法について説明しています。 <a href="http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/">edocs.beasys.co.jp/e-docs/</a> から電子形式 (PDF) で入手できます。

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース

リソース名	説明
オンライン ヘルプ	<p>オンライン ヘルプは、Collaboration のすべてのレベルのユーザーが利用できます。ポータルユーザー インタフェースの説明およびポータルで作業を行うための詳細手順が含まれています。</p> <p>オンライン ヘルプにアクセスするには、ポートレットまたはポータル バナーの右上端にある [🔗 Help] をクリックしてください。</p>
AquaLogic User Interaction Support Center	<p>AquaLogic User Interaction Support Center は、AquaLogic User Interaction 製品に関する技術情報の総合的なリポジトリです。Support Center では、製品やドキュメントへのアクセス、ナレッジ ベースの記事の検索、最新のニュースや情報の参照、サポート コミュニティへの参加、トレーニングの受講、AquaLogic User Interaction 関連のニーズに適合するツールの入手を行うことができます。Support Center 内には以下のコミュニティが用意されています。</p> <p><b>Technical Support Center</b></p> <p>サポート問題や機能要求の提出および追跡、ナレッジ ベースの検索、ドキュメントの入手、サービス パックおよびホット フィックスのダウンロード等を行うことができます。</p> <p><b>News &amp; Events</b></p> <p>News &amp; Events Center は、導入の展開に関する情報を提供します。Super User Group ページでは、他の開発者と情報交換したり、最新のミーティング内容を表示したりできます。</p> <p><b>Product Center</b></p> <p>製品のダウンロード、リリース ノートの参照、最新の製品ドキュメントの入手、インターオペラビリティに関する情報の入手などが可能です。</p> <p><b>Education Center</b></p> <p>トレーニング コースに関する情報の入手、トレーニング クレジットの購入、受講するための登録を行うことができます。</p> <p>次のサイトにログインしても Support Center が表示されない場合は、アクセス権を得るために <a href="mailto:support-alui.jp@bea.com">support-alui.jp@bea.com</a> にお問い合わせください。  <a href="http://portal.plumtree.com">http://portal.plumtree.com</a></p>

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース

リソース名	説明
www.beasys.co.jp/dev2dev/	開発者用のツールやドキュメントをダウンロードしたり、開発プロジェクトに対してサポートを得たり、BEA の dev2dev ニュースグループを通じて他の開発者と連絡を取ることができます。
Technical Support	<p>上記のリソースを使用しても問題を解決できない場合は、BEA 技術サポートにお問い合わせください。弊社のスタッフが、24 時間 365 日体制でお客様の技術サポート ニーズに対応致します。</p> <p>電子メール: <a href="mailto:support-alui.jp@bea.com">support-alui.jp@bea.com</a></p> <p>電話番号:</p> <p>米国およびカナダ +1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)</p> <p>アジア太平洋地域 +61 2.9931.7822</p> <p>ヨーロッパと英国 +44 (0)1628 589124</p> <p>フランス +33 1.46.91.86.79</p> <p>シンガポール +65 6832.7747</p>

ようこそ

# インストール要件

次の基本手順に従って、導入に備えてネットワークおよびホスト コンピュータを準備します。

1. 導入の進め方に影響をもたらす可能性のある、互換性の問題、既知の問題、および回避策に関する情報について、製品のリリース ノートを参照します。リリース ノートは、製品パッケージのトップレベル ディレクトリにあります。
2. Collaboration インストール ワークシート ドキュメント (**Collaboration\_Installation\_Worksheet.pdf**) の設定用ワークシートを印刷します。
3. この導入で割り当てた値を特定し、それらの値を Collaboration インストール ワークシート ドキュメントに記録します。
4. 導入に備えてホスト コンピュータをプロビジョニングして、必要なソフトウェアをインストールします。詳細については、[2-2 ページの「ハードウェアおよびソフトウェアの要件」](#)を参照してください。

# ハードウェアおよびソフトウェアの要件

以下の表に、Collaboration に必要なソフトウェア要件を示します。導入規模に基づく推奨構成については、『Deployment Guide for BEA AquaLogic User Interaction』を参照してください。

**警告：** IPv6 はサポートされていません。この製品をインストールする前に、IPv6 が無効になっていることを確認してください。

表 2-1 ハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	要件
Collaboration ホスト コンピュータ	<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows 2000 SP4、Microsoft Windows 2003 SP1</li><li>• x86 搭載の Red Hat Enterprise Linux 4.0 Update 3 (ES &amp; AS)</li><li>• x86 搭載の SUSE Enterprise Linux 9</li><li>• POWER3、POWER4、POWER5 搭載の AIX 5.3</li><li>• SPARC 搭載の Solaris 8、9、10</li></ul>
データベース サーバー ホスト コンピュータ	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>(Windows のみ)</b> Microsoft SQL Server 2000 SP3a、Microsoft SQL Server 2005</li><li>• Oracle 9i (9.2.0.4) デフォルト、または Oracle RAC 設定</li><li>• Oracle 10g (10.1.0.3 または 10.2.0.x) デフォルト、または Oracle RAC 設定</li></ul> <p><b>注意：</b> Oracle を 10.1.x から 10.2.x にアップグレードする場合または SQL Server を 2000 から 2005 にアップグレードする場合は、それらのアップグレードを Collaboration をアップグレードする前に行うこと。</p>
ポータル	<ul style="list-style-type: none"><li>• BEA AquaLogic Interaction 6.1</li></ul>



**表 2-1 ハードウェアおよびソフトウェアの要件**

コンポーネント	要件
ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Internet Explorer バージョン 5.5 および 6.x</li> <li>• Netscape 7.2、Netscape 8</li> <li>• Safari 1.3 (Mac - Simple Mode のみ)、Safari 2.0 (Mac - Simple Mode のみ)</li> <li>• Firefox 1.0、Firefox 1.5</li> </ul>
グループウェア サーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Exchange 2000 SP3 以上</li> <li>• Microsoft Exchange 2003</li> <li>• Lotus Notes 5.0.11</li> </ul>
MS Exchange の統合に必要なソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft.NET</li> <li>• Microsoft Web Services Enhancement</li> </ul>
Microsoft Project	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Project 2000</li> <li>• Microsoft Project 2003</li> </ul>

## インストール要件

# クイックスタートの概要

この章では、**Collaboration** のインストールおよびアップグレードに関する高度な手順を簡単に説明します。またこの章は、インストールおよびアップグレードの手順を経験豊富な開発者の方にすぐさま理解していただくことを目的としています。

この章は、主に以下の 2 つの節から構成されています。

- **インストール**。この節では、**Collaboration** コンポーネントのインストール、データベースのスクリプトの実行、インストールの開始および検証について説明します。この節の構成は、第 4 章「インストール」の手順にそのまま対応しています。
- **アップグレード**。この節では、**Collaboration** のバージョンを最新バージョンにアップグレードする方法について説明します。この節の構成は、第 5 章「アップグレード」の手順にそのまま対応しています。

## インストール

**Collaboration** をインストールする前に、**Search Service**、**Image Service**、ドキュメントリポジトリ サービス、**API サービス**、**Automation Service**、および **ALI Logging Utilities** を含めて、ポータルが正常に稼動していることを確認してください。**AquaLogic Interaction** のインストールおよび設定に関する詳細については、以下を参照してください。

- 『Installation and Upgrade Guide for BEA AquaLogic Interaction (Windows)』
- 『Installation and Upgrade Guide for BEA AquaLogic Interaction (UNIX and Linux)』

## Collaboration データベースの作成

この節では、Collaboration データベースの作成について説明します。データベースのプラットフォームに応じた手順を実行してください。このタスクの実行に関する詳細については、[4-3 ページの「Collaboration データベースの作成」](#)を参照してください。

**注意：** UNIX/Linux 用の Collaboration でのみ、Oracle がサポートされます。

## Collaboration データベース (SQL Server) の作成

これらの手順を実行する前に、SQL サーバー ポータル データベースが正常に稼動していることを確認してください。これらの手順を実行するには、ポータル データベースに対するデータベース管理者の権限が必要になります。

**注意：** Collaboration データベースとポータル データベースは、同じベンダ、同じバージョンのものである必要があり、同じ物理マシンに導入する必要があります。

1. SQL Server Service Manager が実行されていることを確認します。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
  - **(SQL Server 2000)** SQL Server Enterprise Manager を開きます。
  - **(SQL Server 2005)** SQL Server Management Studio を開きます。
3. Collaboration データベースを作成します。
4. SQL Server 認証を使用して、Collaboration データベース用のログイン ID およびパスワードを追加します。
5. Collaboration データベースに対するアクセス権および所有権を現在のユーザーに設定します。
6. Enterprise Manager を閉じます。

## Collaboration データベース (Oracle) の作成

Collaboration をインストールする前に、Oracle ポータル データベースが正しくインストールおよび設定されていることを確認してください。

**注意：** Collaboration データベースとポータル データベースは、同じベンダ、同じバージョンのものである必要があります、同じ物理マシンに導入する必要があります。

Collaboration は独自の Oracle データベースを使用しません。代わりに、Collaboration のスキーマが、ポータルのスキーマを含む既存の Oracle データベースに追加されます。

Collaboration のインストールを進める前に、Oracle の初期化ファイル内の **open\_cursors** パラメータが、1000 より大きい値に設定されていることを確認してください。このパラメータは、ポータル データベースの設定時に正しく設定されている必要があります。

## Microsoft Exchange 統合への準備 (Windows のみ)

Collaboration を Microsoft Exchange と統合する場合、以下を実行する必要があります。

1. Exchange Remote API インストーラを実行する前に、IIS サーバーが稼動していることを確認してください。IIS の設定については、[B-1 ページの「IIS の設定および確認」](#)を参照してください。

2. Microsoft .NET 1.1 Framework をインストールします。

これは、Microsoft のウェブ サイト (<http://www.microsoft.com/>) からダウンロードする必要があります。

3. Microsoft Web Services Enhancement 2.0 をインストールします。

これは、Microsoft のウェブ サイト (<http://www.microsoft.com/>) からダウンロードする必要があります。

.NET Framework および Web Services Enhancement は、Collaboration 用のグループウェア統合製品を実行する同じマシン上にインストールする必要があります。

## インストーラの実行

このタスクの実行に関する詳細については、[4-5 ページの「インストーラの実行」](#)を参照してください。

## クイックスタートの概要

Collaboration をインストールするには、インストーラを実行するマシンに対する管理権限が必要になります。さらに、ポータル データベースの管理者権限を持つ必要があります。

Collaboration をインストールするには、次の手順に従います。

1. 以下を実行して、Collaboration のインストーラを起動します。
  - **(Windows)** インストール ファイル (ALICollaboration\_v4-2.exe) を見つけてダブルクリックします。
  - **(UNIX/Linux)** 次のコマンドラインを入力して、インストーラを見つけます。

```
cd <installer_file_path>
./ALICollaboration_v4-2
```
2. **(Windows のみ)** コンピュータを再起動します。

## ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトの実行

Collaboration インストーラがインストールを完了した後、ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトを実行する必要があります。データベースのプラットフォームに応じた手順を実行してください。このタスクの実行に関する詳細については、[4-16 ページの「ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトの実行」](#)を参照してください。

### MS SQL サーバーの設定 (Windows のみ)

この節では、Collaboration データベースのスキーマの作成方法と設定方法、および Collaboration のポータル データベースのスキーマの設定方法について説明します。このタスクの実行に関する詳細については、[4-16 ページの「MS SQL Server の設定 \(Windows のみ\)」](#)を参照してください。

以下の表に、このタスクの実行に使用するスクリプトを示します。

**表 3-1 Collaboration の SQL Server データベースのスキーマを作成および設定するためのスクリプト**

スクリプトの機能	名前	データベース /ID
Collaboration データベースのスキーマの設定	collaboration-server-create-tables.sql	Collaboration データベース / Collaboration データベース ID
	collaboration-server-data.sql	
	collaboration-server-portal-role-grant.sql	
ポータル データベースのスキーマの設定	portal-collaboration-server-role-grant.sql	ポータル データベース / ポータル データベース ユーザー ID
	portal-collaboration-server-data.sql	

スクリプトは以下のディレクトリに格納されています。

**<PT\_HOME>\ptcollab\4.2\sql\6.1\MSSQLServer**

デフォルトでは、PT\_HOME ディレクトリは **C:\bea\alui** です。ただし、Collaboration 4.2 にアップグレードした場合、PT\_HOME の場所は以前インストールしたバージョンの Collaboration と同じ場所になります。

Collaboration データベースのスキーマを設定するためのスクリプトを実行するには、SQL Server に接続して Collaboration データベース ユーザーとしてログインします。

Collaboration データベース上でスクリプトを実行します。

ポータル データベースのスキーマを設定するためのスクリプトを実行するには、ポータル データベース ユーザーとしてポータル データベースに接続します。ポータル データベース上でスクリプトを実行します。

## Oracle の設定

この節では、Collaboration データベースのスキーマの作成方法と設定方法、および Collaboration のポータル データベースのスキーマの設定方法について説明します。このタスクの実行に関する詳細については、[4-18 ページの「Oracle の設定」](#)を参照してください。

# クイックスタートの概要

以下の表に、このタスクの実行に使用するスクリプトを示します。

表 3-2 Collaboration の Oracle データベースのスキーマを作成および設定するためのスクリプト

スクリプトの機能	名前	データベース /ID
Collaboration データベースのスキーマの作成	collaboration-server-create-table-space.sql collaboration-server-create-user.sql	Collaboration データベース / Collaboration データベース ID
Collaboration データベースのスキーマの設定	collaboration-server-create-tables.sql collaboration-server-data.sql collaboration-server-portal-role-grant.sql	Collaboration データベース / Collaboration データベース ID
ポータル データベースのスキーマの設定	portal-collaboration-server-role-grant.sql portal-collaboration-server-data.sql	ポータル データベース / ポータル データベース ユーザー ID

**注意：** ローカル マシン上でスクリプトを実行する場合、`@<Oracle_SID>` というコマンドラインを含める必要はありませんが、環境変数が設定されていることを確認する必要があります。

## インストール後の手順の実行

これらのタスクの実行に関する詳細については、[4-21 ページの「インストール後の手順の実行」](#)を参照してください。

この節では、ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトを実行した後に行う必要のある手順について説明します。実行する手順の順序は、以下のとおりです。

1. [Collaboration 移行パッケージのインポート](#)
2. [オプションの Collaboration 機能の設定](#)
3. [Notification Service の開始](#)
4. [Collaboration の起動](#)
5. [Collaboration ロギングの設定](#)



## Collaboration 移行パッケージのインポート

この節では、Collaboration 移行パッケージのインポート方法について説明します。オペレーティング システムに応じた手順を実行します。

### 移行パッケージのインポート (Windows)

Windows に移行パッケージをインポートするには、ポータルにログオンし、マイグレーション ウィザードを使用して Collaboration 移行パッケージをインポートします。移行パッケージのファイル名は、**Collaboration6.ptc** です。

### 移行パッケージのインポート (UNIX/Linux)

UNIX/Linux に移行パッケージをインポートするには、ポータルにログオンして、以下にある **Collaboration6.ptc** ファイルをインポートします。

<PT\_HOME>/ptcollab/4.2/serverpackages/6.1

## オプションの Collaboration 機能の設定

次のオプション機能については、追加設定およびインストーラの実行後の設定が必要です。

- パーソナル プロジェクト
- Bulk Upload (一括アップロード)
- グループウェアの統合
- ナレッジ ディレクトリへの発行

これらの機能の設定については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

## Notification Service の開始

この節では、Notification Service の開始方法について説明します。オペレーティング システムに応じた手順を実行してください。このタスクの実行に関する詳細については、[4-24 ページの「Notification Service の開始」](#)を参照してください。

## クイックスタートの概要

### Notification Service の開始 (Windows の場合 )

Windows で Notification Service を開始するには、BEA ALI Notification Service を見つけて開始します。

### Notification Service の開始 (UNIX/Linux の場合 )

UNIX/Linux で Notification Service を開始するには、最初にポータル管理者としてログインし、以下のディレクトリにある起動スクリプトにアクセスする必要があります。

`/opt/bea/alui/ptnotification/4.2/bin/ptnotificationserverd.sh`

## Collaboration の起動

この節では、Windows および UNIX/Linux で Collaboration を起動する方法について説明します。

### Collaboration の起動方法 (Windows の場合 )

Windows で Collaboration を起動するには、次の手順に従います。

1. インストーラを実行した後に、Collaboration がインストールされているコンピュータを再起動していない場合、そのコンピュータを再起動します。
2. **BEA ALI Collaboration** という Windows サービスを開始します。
3. [Collaboration Diagnostics] ページにアクセスして分析することによって、Collaboration が正しく機能していることを確認します。

### Collaboration の起動方法 (UNIX/Linux の場合 )

UNIX/Linux で Collaboration を起動するには、次の手順に従います。

1. **start** 引数を指定して **ptcollaborationserverd.sh** スクリプトを実行します。このスクリプトは `/opt/bea/alui/ptcollab/4.2/bin` ディレクトリにあります。
2. [Collaboration Diagnostics] ページにアクセスして分析することによって、Collaboration が正しく機能していることを確認します。

## Collaboration ロギングの設定

AquaLogic Interaction 6.x には、Collaboration ロギングを設定するオプションが用意されています。このオプションには、Logging Utilities の設定、Collaboration のメッセージを表示する ALI Logging Spy の設定が含まれます。Collaboration ロギングの設定については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

## アップグレード

Collaboration のアップグレードに関する詳細については、[5-1 ページの「アップグレード」](#)を参照してください。

**注意：** Oracle を 10.1.x から 10.2.x にアップグレードする場合または SQL Server を 2000 から 2005 にアップグレードする場合は、それらのアップグレードを Collaboration をアップグレードする前に行う必要があります。

## アップグレード パス

以下の表に、現行バージョンの Collaboration にアップグレードするためのアップグレードパスを示します。

表 3-3 アップグレード パス

アップグレード パス	説明
4.1 SP2 から 4.2	この章で説明する手順を順番どおりに実行します。手順「ポータルデータベースおよび Collaboration データベースのアップグレード」を実行する際に、 <b>collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql</b> アップグレードスクリプトを実行します。
4.1 SP1 から 4.2	この章で説明する手順を順番どおりに実行します。手順「ポータルデータベースおよび Collaboration データベースのアップグレード」を実行する際に、次のスクリプトを順番どおりに実行します。 <ol style="list-style-type: none"><li><b>collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql</b></li><li><b>collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql</b></li></ol>

クイックスタートの概要

表 3-3 アップグレードパス

アップグレードパス	説明
4.1 から 4.2	<p>この章で説明する手順を順番どおりに実行します。手順「ポータルデータベースおよび Collaboration データベースのアップグレード」を実行する際に、次のスクリプトを順番どおりに実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. <b>collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql</b></li><li>2. <b>collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql</b></li></ol> <p><b>注意：</b> Collaboration 4.1 を 4.1 SP1 にアップグレードするためのアップグレードスクリプトを実行する必要はありません。このアップグレードを実行する際は、Collaboration 4.1 SP1 を 4.1 SP2 にアップグレードするためのスクリプトを実行します。</p>
4.0.2 から 4.2	<p>この章で説明する手順を順番どおりに実行します。手順「ポータルデータベースおよび Collaboration データベースのアップグレード」を実行する際に、次のスクリプトを順番どおりに実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. <b>collaboration-server-4-0-2-to-4-1-0-upgrade.sql</b></li><li>2. <b>collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql</b></li><li>3. <b>collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql</b></li></ol>

表 3-3 アップグレードパス

アップグレードパス	説明
(Windows のみ) 3.x から 4.2	<p>現在、Collaboration サーバー バージョン 3.x を使用している場合、最初に Collaboration サーバー 4.0.2 にアップグレードする必要があります。このアップグレードパスの詳細については、『Installation Guide for Plumtree Collaboration Server 4.0.2』を参照してください。</p> <p>Collaboration サーバー 4.0.2 にアップグレードしたら、4.0.2 から 4.2 へのアップグレードパスで説明した手順に従って Collaboration をアップグレードします。</p>
2.x から 4.2	<p>現在、Collaboration サーバー バージョン 2.x を使用している場合、最初に Collaboration サーバー 3.x にアップグレードする必要があります。このアップグレードパスの詳細については、『プラムツリー コラボレーション サーバー 3.0 インストール ガイド』を参照してください。</p> <p>Collaboration サーバー 3.x にアップグレードしたら、3.x から 4.2 へのアップグレードパスで説明した手順に従って Collaboration をアップグレードします。</p> <p><b>注意：</b> UNIX/Linux ユーザー - Collaboration 3.x は Windows 版のみリリースされています。3.x のインストールは、Windows マシン上で実行する必要があります。</p>

## アップグレード時のインストーラの実行

このタスクの実行に関する詳細については、[5-4 ページの「アップグレード時のインストーラの実行」](#)を参照してください。

アップグレード時にインストーラを実行するには、次の手順に従います。

1. ポータル データベース、Collaboration データベース、およびドキュメント リポジトリ サービスをバックアップします。
2. BEA ALI Collaboration サービス、Notification Service、Search Service、および Automation Service を停止します。
3. 組み込みアプリケーション サーバーの作業ディレクトリをクリアします。
4. 古いバージョンの Collaboration ファイルをインストールしたディレクトリに、インストーラのファイルをコピーします。

## クイックスタートの概要

5. 以前のバージョンの Collaboration をホストしているマシンで、インストーラを実行し、次のコンポーネントを選択します。
  - Collaboration
  - Notification Service
6. ポータルの Image Service がインストールされているマシンで、Collaboration インストーラを実行します。Image Service Files コンポーネントを選択します。
7. Collaboration がインストールされているマシンを再起動します。

## ポータル データベースおよび Collaboration データベースのアップグレード

この節では、ポータル データベースおよび Collaboration データベースのアップグレードについて説明します。データベースのプラットフォームに応じた手順を実行してください。

**注意：** ポータル データベースおよび Collaboration データベースの両方をアップグレードする必要があります。また、両方のデータベースは同じコンピュータに共存させる必要があります。

## Oracle データベースのアップグレード

Collaboration ファイルがデフォルトの場所にインストールされている場合、Oracle のアップグレード スクリプト ファイルは、Collaboration コンピュータに格納されています。

Oracle データベースをアップグレードするには、次の手順に従います。

1. Collaboration データベースのアップグレード スクリプトを、デフォルトのインストール場所からデータベースが導入されているコンピュータの Oracle フォルダまたはそのサブディレクトリにコピーします。スクリプトは以下のパスのいずれかに格納されています。
  - <PT\_HOME>\ptcollab\4.2\sql\6.1\Oracle\OracleNT9.2
  - <PT\_HOME>\ptcollab\4.2\sql\6.1\Oracle\OracleNT10
2. 最新の Oracle パッチがインストールされていることを確認してください。

3. 実稼動環境をアップグレードする場合、ログ ファイルをアーカイブするようにデータベースを設定してください。
4. 読み取りに関して一貫性を持つバックアップを得るために、データベースをシャットダウンする必要があります。
5. SQLPlus と、Collaboration データベース サーバーのスキーマ ユーザー ID およびパスワードを使用して、アップグレード パスに従ってアップグレード スクリプトを実行します。

- **collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql**
- **collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql**
- **collaboration-server-4-0-2-to-4-1-0-upgrade.sql**

**注意：** 複数のアップグレードを実行する場合、[3-9 ページの「アップグレード パス」](#)に示した順番でアップグレード スクリプトを実行します。

6. **collaboration-server-portal-role-grant.sql** スクリプトを実行します。
7. SQLPlus と、ポータル データベース サーバーのスキーマ ユーザー ID およびパスワードを入力して、次のスクリプトを実行します。
  - **portal-collaboration-server-data.sql**
  - **portal-collaboration-server-role-grant.sql**
  - **portal-collaboration-server-upgrade.sql**

## SQL Server データベースのアップグレード (Windows のみ)

Collaboration ファイルがデフォルトの場所にインストールされている場合、MS SQL Server 2000 のアップグレード スクリプト ファイルは、Collaboration コンピュータに格納されています。これらのスクリプトは以下のディレクトリに格納されています。

**<PT\_HOME>\ptcollab\4.2\sql\6.1\MSSQLServer**

SQL Server データベースをアップグレードするには、次の手順に従います。

1. **クエリ アナライザ**を実行します。
2. SQL サーバーに接続し、Collaboration データベースのユーザー ID およびパスワードを入力してログインします。

## クイックスタートの概要

3. Collaboration データベースを選択します。
4. アップグレードパスに従ってアップグレードスクリプトを開き、実行します。
  - **collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql**
  - **collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql**
  - **collaboration-server-4-0-2-to-4-1-0-upgrade.sql**
  - **collaboration-server-portal-role-grant.sql**

**注意：** 複数のアップグレードを実行する場合、[3-9 ページの「アップグレードパス」](#)に示した順番でアップグレードスクリプトを実行します。
5. SQL サーバーに接続し、ポータルデータベースのユーザー ID およびパスワードを入力してログインします。
6. ポータルデータベースを選択します。
7. **portal-collaboration-server-role-grant.sql** を開き、実行します。
8. **portal-collaboration-server-data.sql** を開き、実行します。
9. **portal-collaboration-server-upgrade.sql** を開き、実行します。
10. クエリアナライザを閉じます。

## アップグレード後の手順

この節では、ポータルデータベースおよび Collaboration データベースをアップグレードした後に行う必要のある追加手順について順番に説明します。

このタスクの実行に関する詳細については、[5-7 ページの「アップグレード後の手順」](#)を参照してください。

1. 移行パッケージをインポートします。
2. ポータルゲートウェイの値を手動で取得するように Collaboration を設定している場合、使用されるウェブサービス ID を変更する必要があります。Collaboration 管理の [ポータルアクセス] ページにある、通知ゲートウェイ エントリのウェブサービス ID に設定する必要があります。
3. 必要に応じて、Collaboration に関する次の詳細機能を設定します。



- パーソナル プロジェクト
- Bulk Upload (一括アップロード)
- グループウェアの統合
- ナレッジディレクトリへの発行

これらの機能の設定については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

4. ポータルを再起動します。
5. Notification Service を開始します。
6. Collaboration を起動します。
7. [Collaboration Diagnostics] ページにアクセスして分析することによって、Collaboration が正しく機能していることを確認します。
8. 検索コレクションを再作成します。

## クイックスタートの概要

# インストール

この章では、Collaboration のインストール方法について説明します。以前のバージョンからアップグレードする場合は、まず、[5-1 ページの「アップグレード」](#)を参照してください。

Collaboration をインストールするには、次の手順に従います。

1. インストール要件を満たしていることを確認します。詳細については、[2-1 ページの「インストール要件」](#)を参照してください。
2. **(Windows のみ / オプション)** Microsoft Exchange 統合への準備を行います。詳細については、[4-2 ページの「Microsoft Exchange 統合へのシステムの準備 \(Windows のみ\)」](#)を参照してください。
3. Collaboration アプリケーションをインストールします。詳細については、[4-2 ページの「Collaboration のインストール方法」](#)を参照してください。
4. ポータルおよび Collaboration データベースのスクリプトを実行します。詳細については、[4-16 ページの「ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトの実行」](#)を参照してください。
5. インストール後の手順を実行します。詳細については、[4-21 ページの「インストール後の手順の実行」](#)を参照してください。

# Microsoft Exchange 統合へのシステムの準備 (Windows のみ)

Collaboration を Microsoft Exchange と統合する場合、Exchange Remote API インストーラを実行する前にシステムの準備を行う必要があります。Exchange Remote API インストーラの実行に関する詳細については、[A-1 ページの「Exchange Remote API のインストール」](#)を参照してください。

## Microsoft Exchange 統合への準備

1. IIS を設定します。詳細については、[B-1 ページの「IIS の設定および確認」](#)を参照してください。

2. Microsoft .NET 1.1 Framework をインストールします。

これは、Microsoft のウェブ サイト (<http://www.microsoft.com/>) からダウンロードする必要があります。

3. Microsoft Web Services Enhancement 2.0 をインストールします。

これは、Microsoft のウェブ サイト (<http://www.microsoft.com/>) からダウンロードする必要があります。

.NET Framework および Web Services Enhancement は、Microsoft Exchange をホストする同じマシン上にインストールする必要があります。

## Collaboration のインストール方法

Collaboration をインストールする前に、Search Service、Image Service、ドキュメントリポジトリ サービス、API サービス、Automation Service、および ALI Logging Utilities を含めて、ポータルが正常に稼動していることを確認してください。AquaLogic Interaction のインストールおよび設定に関する詳細については、以下を参照してください。

- 『Installation and Upgrade Guide for BEA AquaLogic Interaction (Windows)』
- 『Installation and Upgrade Guide for BEA AquaLogic Interaction (UNIX and Linux)』

## Collaboration データベースの作成

この節では、Collaboration データベースの作成について説明します。データベースのプラットフォームに応じた手順を実行してください。

**注意：** UNIX/Linux 用の Collaboration でのみ、Oracle がサポートされます。

### Collaboration データベース (SQL Server) の作成

これらの手順を実行する前に、SQL Server ポータル データベースが正常に稼動していることを確認してください。これらの手順を実行するには、ポータル データベースに対するデータベース管理者の権限が必要になります。

**注意：** Collaboration データベースとポータル データベースは、同じベンダ、同じバージョンのものである必要があり、同じ物理マシンに導入する必要があります。

1. SQL Server Service Manager が実行されていることを確認してください。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
  - **(SQL Server 2000)** SQL Server Enterprise Manager を開きます。
  - **(SQL Server 2005)** SQL Server Management Studio を開きます。
3. Collaboration データベースを作成します。
  - a. Collaboration データベースを作成するデータベース サーバーを選択します。
  - b. データベースのフォルダを右クリックします。
  - c. **[ 新規データベース ]**を選択します。
  - d. データベース名を入力します。

Collaboration は、大文字と小文字が区別されたデータベース名に対応していません。
  - e. **[OK]** をクリックします。
4. Collaboration データベースのユーザーを作成します。
  - a. **[ セキュリティ ]** フォルダを開きます。
  - b. **[ ログイン ]** フォルダを右クリックし、**[ 新規ログイン ]** を選択します。

## インストール

- c. 新規ユーザー用のユーザー ID を指定します。このユーザー ID は、Collaboration のインストール時に指定するユーザー ID と同じです。
  - d. このダイアログボックスの [ 認証 ] エリアで、[ **SQL Server 認証** ] を選択し、パスワードを入力します。このパスワードは、Collaboration のインストール時に指定する必要があります。
  - e. [ **既定値** ] エリアで、作成された Collaboration データベースをデフォルトのデータベースとして設定します。
5. 次のいずれかの操作を実行します。
- **(SQL Server 2000)** [ **データベース アクセス** ] タブをクリックします。このページでは、Collaboration データベースに対するアクセス権および所有権を現在のユーザーに設定します。[ **このログインがアクセスできるデータベースを指定します** ] で、Collaboration データベースを選択します。[ **データベース ロール<コラボレーション データベース>** ] ボックスで、[ **db\_owner** ] ([ **public** ] は既に選択されています) を選択し、[ **OK** ] をクリックします。
  - **(SQL Server 2005)** [ **User Mapping** ] ページにアクセスします。このページでは、Collaboration データベースに対するアクセス権および所有権を現在のユーザーに設定します。[ **Users mapped to this login** ] ページで、Collaboration データベースを選択します。Collaboration データベースが Collaboration データベース ユーザーにマップされていることを確認します。[ **Database role membership** ] ボックスで、[ **db\_owner** ] をチェックして ([ **public** ] は既にチェックされています) を選択し、[ **OK** ] をクリックします。
6. 次のいずれかの操作を実行します。
- **(SQL Server 2000)** Enterprise Manager を閉じます。
  - **(SQL Server 2005)** SQL Server Management Studio を閉じます。

## Collaboration データベース (Oracle) の作成

Collaboration をインストールする前に、Oracle ポータル データベースが正しくインストールおよび設定されていることを確認してください。

**注意：** Collaboration データベースとポータル データベースは、同じベンダ、同じバージョンのものである必要があり、同じ物理マシンに導入する必要があります。

Collaboration は独自の Oracle データベースを使用しません。代わりに、Collaboration のスキーマが、ポータルのスキーマを含む既存の Oracle データベースに追加されます。

Collaboration のインストールを進める前に、Oracle の初期化ファイル内の **open\_cursors** パラメータが、1000 より大きい値に設定されていることを確認してください。このパラメータは、ポータル データベースの設定時に正しく設定されている必要があります。

## インストーラの実行

この節では、Collaboration のインストール方法について説明します。

**注意：** 以前にインストーラを実行してプロパティ ファイルを作成した場合、ファイルの値に基づいてサイレント モードでインストーラを実行できます。サイレントインストールの実行については、[C-1 ページの「サイレントプロパティ ファイル」](#)を参照してください。

Collaboration をインストールするには、インストーラを実行するマシンに対する管理権限が必要になります。さらに、ポータル データベースの管理者権限を持つ必要があります。

Collaboration をインストールするには、次の手順に従います。

1. 以下を実行して、Collaboration インストーラを起動します。
  - **Windows:** インストール ファイル (ALICollaboration\_v4-2.exe) を見つけてダブルクリックします。
  - **UNIX/Linux:** 次のコマンドラインを入力して、インストーラを見つけます。  

```
cd <installer_file_path>
./ALICollaboration_v4-2
```

2. 以下の表に示すインストール ウィザード ページを実行します。

**表 4-1 Collaboration インストーラの画面**

インストーラの画面	説明
Introduction	インストーラに関する基本情報を表示します。インストールを開始するには、[Next] をクリックします。
License Agreement	Collaboration をインストールするには、ライセンス契約書を読み、承諾する必要があります。ライセンス契約書を読み、適切なボタンを選択した後に、[Next] をクリックします。

# インストール

表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
Choose Components	<p>インストールする Collaboration コンポーネントを選択することができます。設定によっては、各コンポーネントを個別のサーバーにインストールすることができます。</p> <p>Collaboration のコンポーネントは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[Collaboration]</b>: これは、中心となる Collaboration アプリケーションであり、必須です。</li><li>• <b>[Notification]</b>: このオプション コンポーネントは、Collaboration からの電子メールをエンドユーザーに送信します。Collaboration 内のオブジェクトを購読することにより、そのオブジェクトが更新された際に、通知を受信することができます。</li></ul> <p><b>注意：</b> 通知コンポーネントは、プロジェクトの電子メール機能およびグループウェアの統合機能を使用するユーザーに対しては必要ありません。ただし、Notification Service が実行されていない場合、プロジェクトの電子メール機能の有効性は低くなります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[Image Service Files]</b>: この必須コンポーネントには、Collaboration に必要なイメージ、スタイル、ユーザー インタフェース コントロール、Java アプレット、およびオンライン ヘルプがインストールされます。これらのファイルは、ポータルの Image Service がインストールされている同じマシンにインストールします。</li></ul> <p>インストールするコンポーネントを選択した後、<b>[Install]</b> をクリックします。</p>
Installation Folder	<p>デフォルトのインストール フォルダは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>C:\bea\alui (Windows)</b></li><li>• <b>/opt/bea/alui (UNIX/Linux)</b></li></ul> <p>必要な情報を入力するか、デフォルトをそのまま使用して、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
AquaLogic Interaction Collaboration - Application Port	<p>http または https を選択して、ポート番号を入力します。</p> <p>デフォルトのポート番号は 11930 です。</p> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>



表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
Portal Settings: Collaboration URL	<p><b>[Collaboration URL]:</b> ポータルおよび Notification Service が、Collaboration と通信するために使用する URL。ポート番号およびパスを含む完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。</p> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
Portal Settings: AquaLogic User Interaction Database	<p>各オペレーティング システムに応じて、いずれかの手順を実行します。</p> <p><b>Windows:</b> Collaboration は、ポータル データベースに接続し、情報を取得します。ポータル データベースおよび Collaboration データベースのベンダを選択します。</p> <p><b>UNIX/Linux:</b> Collaboration は、次の情報を使用し、ポータル データベースとの接続を確立します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Host]:</b> ポータル データベース サーバーのホスト名。完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。</li> <li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Port]:</b> 要求を処理するためにポータル データベースが使用するポート。</li> <li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database SID]:</b> ポータル データベースの Oracle サービス ID。</li> <li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Schema User]:</b> ポータル スキーマおよびそのテーブルに対する所有権が付与されたユーザー ID。</li> </ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>

表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
(Windows/SQL Server のみ) Portal Settings: AquaLogic User Interaction Database	<p>Collaboration は、次の情報を使用し、ポータル データベースとの接続を確立します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Host Computer]</b>: ポータル データベース サーバーのホスト名。完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。</li><li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Port]</b>: 要求を処理するためにポータル データベースが使用するポート。</li><li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Name]</b>: ポータル用に設定されたデータベースの名前。</li><li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Login]</b>: ポータル データベースの所有者のユーザー名。</li></ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
(Windows/Oracle のみ) Portal Settings: AquaLogic User Interaction Database	<p>Collaboration は、次の情報を使用し、ポータル データベースとの接続を確立します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Host]</b>: ポータル データベース サーバーのホスト名。完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。</li><li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Port]</b>: 要求を処理するためにポータル データベースが使用するポート。</li><li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database SID]</b>: ポータル データベースの Windows サービス名。</li><li>• <b>[AquaLogic User Interaction Database Schema User]</b>: ポータル スキーマおよびそのテーブルに対する所有権が付与されたユーザー ID。</li></ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>

表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
Portal Settings: Authentication ID	<p>ポータルと Collaboration との間の通信を保護するには、認証 ID およびパスワードを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Authentication ID]</b>: ポータルは、Collaboration がインストールされているマシンのリソースをアクセスするためにこの認証 ID を使用します。</li> <li>• <b>[Authentication Password]</b>: 認証パスワード。このフィールドは、空白のままにすることができません。</li> </ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
Portal Settings: Document Repository Service	<p>ドキュメント リポジトリ サービスは、Collaboration およびその他の AquaLogic Interaction 製品用のドキュメントのストレージおよび取得を管理するポータル コンポーネントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Document Repository Service Host]</b>: ドキュメント リポジトリ サービスのホスト名。完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。</li> <li>• <b>[Document Repository Service Port]</b>: 要求を処理するためにドキュメント リポジトリ サービスが使用するポート。デフォルト ポートは 8020 です。</li> </ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
Portal Settings: Search	<p>Search Service は、ポータルおよび Collaboration に対して検索機能を提供するポータル コンポーネントです。ポータルが使用する同じホスト名およびポートを使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Search Host Computer]</b>: Search Service のホスト名。完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。</li> <li>• <b>[Search Port]</b>: 要求を処理するために Search Service が使用するポート。デフォルト値は 15244 です。</li> </ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>

## インストール

表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
Image Service URL	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[Image Service URL]</b>: Image Service の URL ( この画面は、Image Service Files コンポーネントをインストールする場合にのみ表示されます)。ドメイン名、ポート番号およびパスを含む完全な URL を入力する必要があります。</li></ul> <p>Notification Service は、この URL を使用して Image Service と通信します。</p> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
Portal Settings: Image Service Directory	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[Image Service Directory]</b>: Image Service のファイルがインストールされるポータル サーバーのディレクトリ。</li></ul> <p>UNIX/Linux の場合の例 : /opt/bea/alui/ptimages</p> <p>Windows の場合の例 : C:\bea\alui\ptimages</p> <p><b>注意 :</b> Image Service ディレクトリのセキュリティが Image Service ファイルのインストールを許可するように設定されていることを確認して、<b>[Next]</b> をクリックします。</p> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
(UNIX/Linux のみ) Collaboration: Database Connection	<p>Collaboration データベースに関して次の設定情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[Collaboration Schema User]</b>: Collaboration のスキーマおよびそのテーブルの所有権が付与されたユーザー ID。</li><li>• <b>[Collaboration Schema Password]</b>: Collaboration データベースのスキーマ ユーザーのパスワード。</li></ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
(Windows/SQL Server のみ) Collaboration: Database Connection	<p>Collaboration データベースに関して次の設定情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[Collaboration Database Name]</b>: Collaboration データベースのデータベース名。</li><li>• <b>[Collaboration Database Login]</b>: Collaboration データベースの所有者 ID。</li><li>• <b>[Collaboration Database Password]</b>: Collaboration データベースのパスワード。</li></ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>

表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
<b>(Windows/Oracle のみ)</b> Collaboration: Database Connection	<p>Collaboration データベースに関して次の設定情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Collaboration Schema User]</b>: Collaboration のスキーマおよびそのテーブルの所有権が付与されたユーザー ID。</li> <li>• <b>[Collaboration Schema Password]</b>: Collaboration データベースのスキーマ ユーザーのパスワード。</li> </ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>

表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
Collaboration: Advanced Features	<p>この画面では、Collaboration に関する次の詳細機能をオプションでインストールできます。</p> <p><b>[Bulk Upload]:</b> この機能は、同時に複数のファイルおよびフォルダを Collaboration にアップロードできるようにします。</p> <p>この機能は、クライアント コンピュータにインストールされた Java ランタイム環境を必要とする Java アプレットを使用します。この機能を使用するには、クライアント ブラウザの特定のセキュリティを設定する必要があります。Collaboration のインストール後に行う必要のあるクライアントの変更については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。</p> <p><b>[WebDAV Service]:</b> ウェブベースのドキュメント作成およびバージョンング (WebDAV) プロトコルは、ドキュメント管理を容易にする HTTP プロトコルの拡張プロトコルです。</p> <p>WebEdit 機能およびウェブ フォルダのマップ機能を使用するには、WebDAV をインストールする必要があります。これらの機能の詳細については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。</p> <p><b>[Microsoft Exchange Integration]:</b></p> <p><b>(Windows のみ)</b></p> <p>このオプションは、ユーザーが個人用の Collaboration カレンダーとユーザーの Microsoft Exchange カレンダーを同期してグループウェアの統合機能を使用できるようにします。Microsoft Exchange を Collaboration と統合するには、Exchange Remote API もインストールする必要があります。詳細については、<a href="#">A-1 ページの「Exchange Remote API のインストール」</a>を参照してください。</p> <p>Collaboration インストーラは、config.xml でグループウェアの統合固有の設定を行います。その場合、以下の条件が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Internet Information Server (IIS) が実行している</li><li>• Microsoft .NET Framework がインストールされている</li><li>• Microsoft Web Server Enhancement (WSE) がインストールされている</li></ul> <p><b>注意:</b> グループウェアの統合は、プロジェクトの電子メール機能を使用するユーザーに対しては必要ありません。プロジェクトの電子メール機能の詳細については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。</p>

表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
	<p><b>[Lotus Notes Integration]:</b> このオプションは、ユーザーが個人用の Collaboration カレンダーとユーザーの Lotus Notes カレンダーを同期してグループウェアの統合機能を使用できるようにします。Collaboration インストーラは、config.xml でグループウェアの統合固有の設定を行います。</p> <p>この機能をインストールした場合、Collaboration のインストール後にいくつかの設定手順を実行する必要があります。詳細については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。</p> <p><b>[No Groupware Integration]:</b> この時点でグループウェアの統合を設定しない場合は、このオプションを選択してください。後でグループウェアの統合を設定する場合は、設定時に config.xml ファイルの設定を変更してグループウェアの統合ができるようにしてください。config.xml でのグループウェアの統合固有の設定については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。</p> <p><b>注意：</b> グループウェアの統合は、プロジェクトの電子メール機能を使用するユーザーに対しては必要ありません。プロジェクトの電子メール機能の詳細については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。</p> <p>インストールする機能を選択した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
<p><b>(Windows のみ)</b></p> <p>Collaboration: Exchange Remote API URL</p>	<p>Exchange Remote API が、Collaboration と通信するために使用する URL。</p> <p>デフォルト値は次のとおりです。</p> <p>http://[machine]/GroupwareService/GroupwareService.asmx</p> <p>必要な情報を入力するか、デフォルトをそのまま使用して、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
Notification: Connection Settings	<p><b>[Notification Host]:</b> Notification Service のホスト名。</p> <p><b>[Notification Port]:</b> Notification Service が要求を受け付けるポート。デフォルト値は 9887 です。</p> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>

表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
Notification: e-mail Server Settings	<p>Notification Service を設定するには、次を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[Mail Server Host]:</b> サイト用のメール サーバーの場所。</li><li>• <b>[Notification E-mail Address]:</b> Collaboration の通知を送信するために使用する電子メール アドレス。</li><li>• <b>[Notification E-mail Name]:</b> 電子メール通知の「差出人」フィールドに表示される通知メールの送信元の名前。</li></ul> <p><b>注意：</b> ここで指定した電子メール アドレスは、送信されるすべて電子メール通知のコピーを受信します。これらの通知を受信するための電子メール アカウントを作成することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[SMTP Server supports e-mail relaying]:</b> SMTP サーバーが電子メールの転送をサポートしている場合は、このチェック ボックスを選択します。</li><li>• <b>[SMTP Domain List]:</b> SMTP サーバーが転送をサポートしない場合は、<b>[SMTP Server supports e-mail relaying]</b> チェック ボックスをオフにして、カンマで区切られたリストの有効な電子メール ドメインをリストします。</li></ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p>
Collaboration: e-mail a Project	<p>プロジェクトの電子メール送信を有効にするかどうかを指定します。この機能を有効にする場合は、次を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[e-mail Domain]:</b> 電子メール メッセージの受信に使用する Collaboration の電子メール ドメイン。</li><li>• <b>[e-mail Port]:</b> 電子メール メッセージの受信に使用する Collaboration のポート。デフォルトのポート番号は 25 です。</li></ul> <p>必要な情報を入力した後、<b>[Next]</b> をクリックします。</p> <p><b>注意：</b> プロジェクトの電子メール機能の設定手順については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。</p>



表 4-1 Collaboration インストーラの画面

インストーラの画面	説明
Pre-Installation Summary	この画面には、インストーラの各画面に入力したインストール情報の要約が表示されます。この情報を確認し、入力した値に問題がない場合は、 <b>[Install]</b> をクリックします。
Install Complete	この画面は、インストールが完了すると表示されます。インストール後の手順を開始する前に、システムを再起動する必要があります。 選択した後に、 <b>[Finish]</b> をクリックします。

3. (Windows のみ) コンピュータを再起動します。

# ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスキプト の実行

Collaboration インストーラがインストールを完了した後、ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスキプトを実行する必要があります。また、ポータル データベースの管理者権限を持つ必要があります。データベースのプラットフォームに応じた手順を実行してください。

## MS SQL Server の設定 (Windows のみ )

この節では、Collaboration データベースのスキーマの作成方法と設定方法、および Collaboration のポータル データベースのスキーマの設定方法について説明します。MS SQL Server のバージョンに応じた手順を実行します。

以下の表に、このタスクの実行に使用するスキプトを示します。

表 4-2 Collaboration の SQL Server データベースのスキーマを作成および設定するためのスキ  
リプト

スキプトの機能	名前	データベース /ID
Collaboration データ ベースのスキーマの 設定	collaboration-server-create-tables.sql collaboration-server-data.sql collaboration-server-portal-role-grant.sql	Collaboration データベース / Collaboration データベース ID
ポータル データベー スのスキーマの設定	portal-collaboration-server-role-grant.sql portal-collaboration-server-data.sql	ポータル データベース / ポータル データベース ユー ザー ID

スキプトは以下のディレクトリに格納されています。

```
<PT_Home>\ptcollab\4.2\sql\6.1\MSSQLServer
```

## ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスキプトの実行

デフォルトでは、PT\_HOME ディレクトリは **C:\bea\alui** です。ただし、Collaboration 4.2 にアップグレードした場合、PT\_HOME の場所は以前インストールしたバージョンの Collaboration と同じ場所になります。

これらのスクリプトは、Collaboration データベース内に、Collaboration 固有のテーブルおよび情報を作成します。また、Collaboration データベースの所有者に、ポータル データベースの中の必要なテーブルへアクセスするための権限を付与します。

## MS SQL Server 2000 の設定

MS SQL Server 2000 を設定するには、次の手順に従います。

1. クエリ アナライザを実行します。
2. SQL Server に接続し、Collaboration データベースのユーザーとして入力してログインします。
3. Collaboration データベースを選択します。
4. **collaboration-server-create-tables.sql** を開き、実行します。  
このスクリプトは、新しいテーブルを追加する前に、データベースからテーブルをドロップします。
5. **collaboration-server-data.sql** を開き、実行します。  
このスクリプトは、Collaboration データベースの設定情報を追加します。
6. **collaboration-server-portal-role-grant.sql** を開き、実行します。  
このスクリプトは、ポータル データベース ユーザーに、Collaboration テーブルへの SELECT アクセス権限を付与します。
7. ポータル データベースのユーザーとして、ポータル データベースへ接続します。
8. **portal-collaboration-server-role-grant.sql** を開き、実行します。  
このスクリプトは、Collaboration データベース ユーザーに、ポータル データベース テーブルへの SELECT アクセス権限を付与します。
9. **portal-collaboration-server-data.sql** を開き、実行します。  
このスクリプトは、ポータル データベースの設定情報を追加します。
10. クエリ アナライザを閉じます。
11. ポータルを再起動します。

## MS SQL 2005 の設定

MS SQL Server 2005 を設定するには、次の手順に従います。

1. SQL Server Management Studio を実行します。
2. 次のファイルを開きます。
  - **collaboration-server-create-tables.sql**
  - **collaboration-server-data.sql**
  - **collaboration-server-portal-role-grant.sql**
  - **portal-collaboration-server-role-grant.sql**
  - **portal-collaboration-server-data.sql**
3. Collaboration データベースのユーザーとして、Collaboration データベースへ接続します。
4. 開いたスクリプト ファイルを実行します。

## Oracle の設定

この節では、Collaboration データベースのスキーマの作成方法と設定方法、および Collaboration のポータル データベースのスキーマの設定方法について説明します。以下の表に、このタスクの実行に使用するスクリプトを示します。

表 4-3 Collaboration の Oracle データベースのスキーマを作成および設定するためのスクリプト

スクリプトの機能	名前	データベース /ID
Collaboration データベースのスキーマの作成	collaboration-server-create-table-space.sql collaboration-server-create-user.sql	Collaboration データベース / Collaboration データベース ID
Collaboration データベースのスキーマの設定	collaboration-server-create-tables.sql collaboration-server-data.sql collaboration-server-portal-role-grant.sql	Collaboration データベース / Collaboration データベース ID
ポータル データベースのスキーマの設定	portal-collaboration-server-role-grant.sql portal-collaboration-server-data.sql	ポータル データベース / ポータル データベース ユーザー ID

## ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスキプトの実行

これらの SQL スクリプトは、Collaboration スキーマを作成し、特定のテーブルおよび情報を追加します。また、Collaboration スキーマの所有者に、SELECT アクセス権限を付与します。

**注意：** ローカル マシン上でスクリプトを実行する場合、**@<Oracle\_SID>** というコマンドラインを含める必要はありませんが、環境変数が設定されていることを確認する必要があります。

以下に、これらのスクリプトの実行手順を示します。

1. ポータル データベース サーバー上で以下を実行します。
  - ディレクトリ **%ORACLE\_HOME%/ptcollabscripts** を作成します。
  - Collaboration データベースのスキプトを、インストールされている場所から、このフォルダにコピーします。
2. 必要なデータベースのパッチを更新します。
3. 実稼動環境でのインストールの場合、ログ ファイルをアーカイブするようにデータベースを設定します。デフォルト設定を使用して、読み取りに関して一貫性を持つバックアップを得るために、Oracle データベースをシャットダウンする必要があります。
4. 必要な場合は、**collaboration-server-create-table-space.sql** スクリプトを変更することにより、COLLAB\_TEMP および COLLAB\_DATA テーブルスペースの名前と場所を変更することができます。SCSI ハード ドライブは、複数用意することをお勧めします。各テーブルスペースを個別のハード ドライブに格納します。
5. デフォルトでは、Collaboration のスキーマ ユーザー名は *collab* で、パスワードは *collab* です。スキーマ ユーザー名およびパスワードは、**collaboration-server-create-user.sql** スクリプトを変更することにより変更することができます。
6. **sql\*plus** を使用して、**collaboration-server-create-table-space.sql** を実行します。このスクリプトは、Collaboration スキーマのデフォルトのテーブルスペースを作成します。  
このスクリプトを実行するには、システム ユーザーとしてログインする必要があります。以下のコマンドの中のパスワードを、正しいシステム パスワードで置き換えて実行してください。

```
sqlplus system/<system_pwd>@<ORACLE_SID>  
@collaboration-server-create-table-space.sql
```

## インストール

7. システム ユーザーとして、**collaboration-server-create-user.sql** を実行します。このスクリプトは、Collaboration のインストール時に指定したユーザーおよびパスワードを作成します。スクリプトは、再度パスワードを入力するためのプロンプトを表示します。正しいパスワードを入力してください。

```
sqlplus system/<system_pwd>@<ORACLE_SID>  
@collaboration-server-create-user.sql
```

8. Collaboration テーブルを作成するために、Collaboration サーバー ユーザーとして、**collaboration-server-create-tables.sql** を実行します。次のコマンドの中の Oracle ユーザー名およびパスワードを正しいユーザー名およびパスワードに置き換えてください。これは、Collaboration のインストール時に指定したユーザー名およびパスワードです。

```
sqlplus <collab_user_name>/<user_pwd>@<ORACLE_SID>  
@collaboration-server-create-tables.sql
```

**注意：** このスクリプトは、SQL エラーが発生するとすぐに停止します。この場合、問題を解決してから、再度スクリプトを実行する必要があります。

9. Collaboration テーブルにデータを設定するために、Collaboration ユーザーとして、**collaboration-server-data.sql** を実行します。次のコマンドの中の Oracle ユーザー名およびパスワードを正しいユーザー名およびパスワードに置き換えてください。これは、Collaboration のインストール時に指定したユーザー名およびパスワードです。

```
sqlplus <collab_user_name>/<user_pwd>@<ORACLE_SID>  
@collaboration-server-data.sql
```

10. Collaboration ユーザーとして、**collaboration-server-portal-role-grant.sql** を実行します。このスクリプトは、ポータル スキーマ ユーザーに、Collaboration のスキーマの必要なテーブルへの SELECT アクセス権限を付与します。次のコマンドの中の Oracle ユーザー名およびパスワードを正しいユーザー名およびパスワードに置き換えてください。これは、Collaboration サーバーのインストール時に指定したユーザー名およびパスワードです。このスクリプトは、その他の必要なパスワードを入力するようにプロンプトします。

```
sqlplus <collab_user_name>/<user_pwd>@<ORACLE_SID>  
@collaboration-server-portal-role-grant.sql
```

11. ポータル ユーザーとして、**portal-collaboration-server-role-grant.sql** を実行します。このスクリプトは、Collaboration スキーマ ユーザーに、ポータルのスキーマの必要なテーブルへの SELECT アクセス権限を付与します。次のコマンドで、ポータル データ

ベースのユーザー名およびパスワードを正しいユーザー名およびパスワードで置き換えます。このスクリプトは、その他の必要なパスワードを入力するようにプロンプトします。

```
sqlplus <portal_user_name>/<portal_pwd>@<ORACLE_SID>  
@portal-collaboration-server-role-grant.sql
```

12. ポータル ユーザーとして、**portal-collaboration-server-data.sql** を実行します。このスクリプトは、ポータルから Collaboration のテーブルを参照するためのビューをポータルのスキーマの中に作成します。次のコマンドで、ポータルデータベースのユーザー名およびパスワードを正しいユーザー名およびパスワードで置き換えます。

```
sqlplus <portal_user_name>/<portal_pwd>@<ORACLE_SID>  
@portal-collaboration-server-data.sql
```

13. ポータルを再起動します。

## インストール後の手順の実行

この節では、ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトを実行した後に行う必要のある手順について説明します。実行する手順の順序は、以下のとおりです。

1. [Collaboration 移行パッケージのインポート](#)
2. [オプションの Collaboration 機能の設定](#)
3. [Notification Service の開始](#)
4. [Collaboration の起動](#)
5. [Collaboration ロギングの設定](#)

## Collaboration 移行パッケージのインポート

この節では、Collaboration 移行パッケージのインポート方法について説明します。オペレーティング システムに応じた手順を実行します。

## インストール

### 移行パッケージのインポート (Windows)

Windows で移行パッケージをインポートするには、次の手順に従います。

1. 管理権限を持つユーザーとして、ポータルにログオンします。
2. [ **管理** ] タブをクリックします。
3. [ **ユーティリティの選択** ] ドロップダウン リストから [ **移行 - インポート** ] を選択し、デフォルトをそのまま使用します。
4. 移行パッケージエリアで、[ **ファイル パス** ] に移動します。
5. [ **参照** ] をクリックして、.pte ファイル (**Collaboration6.pte**) を見つけます。
6. [ **Open** ] をクリックします。
7. [ **Load Package** ] をクリックします。
8. 以前のバージョンの Collaboration からのアップグレード中に、Collaboration が実行するポート番号を変更した場合は、[ **Overwrite Remote Servers** ] をチェックします。
9. [ **Finish** ] をクリックします。
10. インポートするかどうかを確認するポップアップ ダイアログボックスが表示されます。  
[ **はい** ] をクリックします。
11. Collaboration フォルダが管理オブジェクト ディレクトリ内に表示されます。
12. その Collaboration フォルダをクリックして、次のオブジェクトが存在することを確認します。
  - コンテンツ ソース
  - グループ
  - ポートレット
  - プロパティ
  - リモート サーバー
  - ウェブ サービス



## 移行パッケージのインポート (UNIX/Linux)

UNIX/Linux で移行パッケージをインポートするには、次の手順に従います。

移行パッケージをインポートするには、次の手順に従います。

1. 管理権限を持つユーザーとして、ポータルにログオンします。
2. [管理] タブをクリックします。
3. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストから [移行 - インポート] を選択し、デフォルトをそのまま使用します。
4. 移行パッケージエリアで、[ファイルパス] に移動します。
5. [参照] をクリックして、次のディレクトリに存在する **Collaboration6.ptc** を見つけます。  
`<PT_HOME>/ptcollab/4.2/serverpackages/6.1`
6. [Open] をクリックします。
7. [Load Package] をクリックします。
8. 以前のバージョンの Collaboration からのアップグレード中に、Collaboration が実行するポート番号を変更した場合は、[Overwrite Remote Servers] をチェックします。
9. [Finish] をクリックします。
10. インポートするかどうかを確認するポップアップ ダイアログボックスが表示されます。  
[OK] をクリックします。
11. Collaboration フォルダが管理オブジェクト ディレクトリ内に表示されます。
12. その Collaboration フォルダをクリックして、次のオブジェクト (コンテンツ ソース、グループ、ポートレット、リモート サーバー、プロパティ、ウェブ サービス) が存在することを確認します。

## オプションの Collaboration 機能の設定

次のオプション機能については、追加設定およびインストーラの実行後の設定が必要です。

- パーソナル プロジェクト

## インストール

- Bulk Upload (一括アップロード)
- グループウェアの統合
- ナレッジディレクトリへの発行

これらの機能の設定については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

## Notification Service の開始

この節では、Windows および UNIX/Linux で Notification Service を開始する方法について説明します。

### Notification Service の開始 (Windows の場合)

Windows で Notification Service を開始するには、次の手順に従います。

1. [ スタート | プログラム | 管理ツール | サービス ] をクリックします。
2. BEA ALI Notification Service を見つけてダブルクリックし、[ 開始 ] を選択します。

### Notification Service の開始 (UNIX/Linux の場合)

UNIX/Linux で Notification Service を開始するには、最初にポータル管理者としてログインし、以下のディレクトリにある起動スクリプトにアクセスする必要があります。

**/opt/bea/alui/ptnotification/4.2/bin/ptnotificationserverd.sh**

スクリプトを実行するには **notificationserverd.sh start** を使用し、スクリプトを停止するには **notificationserver.sh stop** を使用してください。

このスクリプトは、バックグラウンドで Notification Service を稼働します。必要であれば、Linux 環境用の起動スクリプトに組み込むことができます。

**notification.log** ファイルでエラーがないことを確認します。このファイルは **/opt/bea/alui/ptnotification/4.2/settings/logs** ディレクトリにあります。

## Collaboration の起動

この節では、Windows および UNIX/Linux で Collaboration を起動する方法について説明します。

### Collaboration の起動方法 (Windows の場合)

Windows で Collaboration を起動するには、次の手順に従います。

1. インストーラを実行した後に、Collaboration がインストールされているコンピュータを再起動していない場合、そのコンピュータを再起動します。
2. **BEA ALI Collaboration** という Windows サービスを開始します。
3. [Collaboration Diagnostics] ページにアクセスして分析することによって、Collaboration が正しく機能していることを確認します。

`http://<your-collab-URL>:<your-collab-port>/collab/admin/diagnostic`

[Collaboration Diagnostics] ページの使用方法については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

### Collaboration の起動方法 (UNIX/Linux の場合)

UNIX/Linux で Collaboration を起動するには、次の手順に従います。

1. **start** 引数を指定して **ptcollaborationserverd.sh** スクリプトを実行します。このスクリプトは **/opt/bea/alui/ptcollab/4.2/bin** ディレクトリにあります。
2. [Collaboration Diagnostics] ページにアクセスして分析することによって、Collaboration が正しく機能していることを確認します。

`http://<your-collab-URL>:<your-collab-port>/collab/admin/diagnostic`

[Collaboration Diagnostics] ページの使用方法については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

**collaboration.log** ファイルでエラーがないことを確認します。このファイルは **/opt/bea/alui/ptcollab/4.2/settings/logs** ディレクトリにあります。

## Collaboration ロギングの設定

AquaLogic Interaction 6.x には、Collaboration ロギングを設定するオプションが用意されています。このオプションには、Logging Utilities の設定、Collaboration のメッセージを表示する ALI Logging Spy の設定が含まれます。Collaboration ロギングの設定については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

# アップグレード

この章では、**Collaboration** を以前のバージョンから現行バージョンにアップグレードする方法について説明します。この章では、アップグレードパスを示し、順番通りに実行する以下の手順について説明します。

1. アップグレード時のインストーラの実行
2. ポータルデータベースおよび **Collaboration** データベースのアップグレード
3. アップグレード後の手順

**注意：** Oracle を 10.1.x から 10.2.x にアップグレードする場合または SQL Server を 2000 から 2005 にアップグレードする場合は、それらのアップグレードを **Collaboration** をアップグレードする前に行う必要があります。

# アップグレード パス

以下の表に、現行バージョンの Collaboration にアップグレードするためのアップグレードパスを示します。

表 5-1 アップグレード パス

アップグレード パス	説明
4.1 SP2 から 4.2	この章で説明する手順を順番どおりに実行します。手順「ポータルデータベースおよび Collaboration データベースのアップグレード」を実行する際に、 <b>collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql</b> アップグレードスクリプトを実行します。
4.1 SP1 から 4.2	この章で説明する手順を順番どおりに実行します。手順「ポータルデータベースおよび Collaboration データベースのアップグレード」を実行する際に、次のスクリプトを順番どおりに実行します。 <b>1. collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql</b> <b>2. collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql</b>
4.1 から 4.2	この章で説明する手順を順番どおりに実行します。手順「ポータルデータベースおよび Collaboration データベースのアップグレード」を実行する際に、次のスクリプトを順番どおりに実行します。 <b>1. collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql</b> <b>2. collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql</b>  <b>注意：</b> Collaboration 4.1 から 4.1 SP1 にアップグレードするためのアップグレードスクリプトを実行する必要はありません。このアップグレードを実行する際は、Collaboration SP1 を 4.1 SP2 にアップグレードするためのスクリプトを実行します。
4.0.2 から 4.2	この章で説明する手順を順番どおりに実行します。手順「ポータルデータベースおよび Collaboration データベースのアップグレード」を実行する際に、次のスクリプトを順番どおりに実行します。 <b>1. collaboration-server-4-0-2-to-4-1-0-upgrade.sql</b> <b>2. collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql</b> <b>3. collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql</b>

表 5-1 アップグレード パス

アップグレード パス	説明
(Windows のみ) 3.x から 4.2	<p>現在、Collaboration サーバー バージョン 3.x を使用している場合、最初に Collaboration サーバー 4.0.2 にアップグレードする必要があります。このアップグレード パスの詳細については、『Installation Guide for Plumtree Collaboration Server 4.0.2』を参照してください。</p> <p>Collaboration サーバー 4.0.2 にアップグレードしたら、4.0.2 から 4.2 へのアップグレード パスで説明した手順に従って Collaboration をアップグレードします。</p>
2.x から 4.2	<p>現在、Collaboration サーバー バージョン 2.x を使用している場合、最初に Collaboration サーバー 3.x にアップグレードする必要があります。このアップグレード パスの詳細については、『プラムツリー コラボレーション サーバー 3.0 インストール ガイド』を参照してください。</p> <p>Collaboration サーバー 3.x にアップグレードしたら、3.x から 4.2 へのアップグレード パスで説明した手順に従って Collaboration をアップグレードします。</p> <p><b>注意：</b> UNIX/Linux ユーザー - Collaboration 3.x は Windows 版のみリリースされています。3.x のインストールは、Windows マシン上で実行する必要があります。</p>

# アップグレード時のインストーラの実行

アップグレード時にインストーラを実行するには、次の手順に従います。

1. ポータル データベース、**Collaboration** データベース、およびドキュメント リポジトリ サービスをバックアップします。

こうすることにより、インストール中に問題があった場合、データを回復することができます。詳細については、データベースの資料を参照してください。

2. **BEA ALI Collaboration** サービス、**Notification Service**、**Search Service**、および **Automation Service** を停止します。
3. 組み込みアプリケーション サーバーの作業ディレクトリをクリアします。デフォルトでは、このディレクトリは以下に存在します。
  - **(Windows)** C:\bea\alui\common\container\tomcat\<version>\work
  - **(UNIX/Linux)** /opt/bea/alui/common/container/tomcat/<version>/work
4. 古いバージョンの **Collaboration** ファイルをインストールしたディレクトリに、インストーラのファイルをコピーします。

これにより、インストーラは前回のインストールで作成されたサイレント プロパティ ファイルを使用することが可能になります。サイレント プロパティ ファイルの使用に関する詳細については、[C-1 ページの「サイレント プロパティ ファイル」](#)を参照してください。
5. 以前のバージョンの **Collaboration** をホストしているマシンで、インストーラを実行し、次のコンポーネントを選択します。
  - **Collaboration**
  - **Notification Service**

インストーラの実行手順に関する詳細については、[4-2 ページの「Collaboration のインストール方法」](#)を参照してください。
6. ポータルの **Image Service** がインストールされているマシンで、**Collaboration** インストーラを実行します。 **Image Service Files** コンポーネントを選択します。
7. **Collaboration** がインストールされているマシンを再起動します。



# ポータル データベースおよび Collaboration データベースのアップグ レード

この節では、ポータル データベースおよび Collaboration データベースのアップデートについて説明します。データベースのプラットフォームに応じた手順を実行してください。

**注意：** ポータル データベースおよび Collaboration データベースの両方をアップグレードする必要があります。また、両方のデータベースは同じコンピュータに共存させる必要があります。

## Oracle データベースのアップグレード

Collaboration ファイルがデフォルトの場所にインストールされている場合、Oracle のアップグレード スクリプト ファイルは、Collaboration コンピュータに格納されています。

Oracle データベースをアップグレードするには、次の手順に従います。

1. Collaboration データベースのアップグレード スクリプトを、デフォルトのインストール場所からデータベースが導入されているコンピュータの Oracle フォルダまたはそのサブディレクトリにコピーします。スクリプトは以下のパスのいずれかに格納されています。
  - <PT\_HOME>\ptcollab\4.2\sql\6.1\Oracle\OracleNT9.2
  - <PT\_HOME>\ptcollab\4.2\sql\6.1\Oracle\OracleNT10
2. 最新の Oracle パッチがインストールされていることを確認してください。
3. 実稼動環境をアップグレードする場合、ログ ファイルをアーカイブするようにデータベースを設定してください。
4. 読み取りに関して一貫性を持つバックアップを得るために、データベースをシャットダウンする必要があります。

## アップグレード

5. SQLPlus と、Collaboration データベース サーバーのスキーマ ユーザー ID およびパスワードを使用して、アップグレードパスに従ってアップグレードスクリプトを実行します。これらのスクリプトは、Collaboration データベースのスキーマをアップグレードします。

- **collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql**
- **collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql**
- **collaboration-server-4-0-2-to-4-1-0-upgrade.sql**

**注意：** 複数のアップグレードを実行する場合、[5-2 ページの「アップグレードパス」](#)に示した順番でアップグレードスクリプトを実行します。

6. **collaboration-server-portal-role-grant.sql** スクリプトを実行します。
7. SQLPlus と、ポータルデータベースサーバーのスキーマ ユーザー ID およびパスワードを入力して、次のスクリプトを実行します。
  - **portal-collaboration-server-data.sql**
  - **portal-collaboration-server-role-grant.sql**
  - **portal-collaboration-server-upgrade.sql**

## SQL Server データベースのアップグレード (Windows のみ)

Collaboration ファイルがデフォルトの場所にインストールされている場合、MS SQL Server 2000 のアップグレードスクリプト ファイルは、Collaboration コンピュータに格納されています。これらのスクリプトは以下のディレクトリに格納されています。

<PT\_HOME>\ptcollab\4.2\sql\6.1\MSSQLServer

SQL Server データベースをアップグレードするには、次の手順に従います。

1. クエリ アナライザを実行します。
2. SQL サーバーに接続し、Collaboration データベースのユーザー ID およびパスワードを入力してログインします。
3. Collaboration データベースを選択します。
4. アップグレードパスに従ってアップグレードスクリプトを開き、実行します。

- **collaboration-server-4.1.2-to-4.2.0-upgrade.sql**
- **collaboration-server-4.1.1-to-4.1.2-upgrade.sql**
- **collaboration-server-4-0-2-to-4-1-0-upgrade.sql**
- **collaboration-server-portal-role-grant.sql**

**注意：** 複数のアップグレードを実行する場合、[5-2 ページ](#)の「アップグレードパス」に示した順番でアップグレード スクリプトを実行します。

5. SQL サーバーに接続し、ポータル データベースのユーザー ID およびパスワードを入力してログインします。
6. ポータル データベースを選択します。
7. **portal-collaboration-server-role-grant.sql** を開き、実行します。
8. **portal-collaboration-server-data.sql** を開き、実行します。
9. **portal-collaboration-server-upgrade.sql** を開き、実行します。
10. クエリ アナライザを閉じます。

## アップグレード後の手順

この節では、ポータル データベースおよび Collaboration データベースをアップグレードした後に行う必要のある追加手順について順番に説明します。

1. 移行パッケージをインポートします。詳細については、[4-21 ページ](#)の「**Collaboration 移行パッケージのインポート**」を参照してください。
2. ポータル ゲートウェイの値を手動で取得するように Collaboration を設定している場合、使用されるウェブ サービス ID を変更する必要があります。Collaboration 管理の [ポータル アクセス] ページにある、通知ゲートウェイ エントリのウェブ サービス ID に設定する必要があります。
3. 必要に応じて、Collaboration に関する次の詳細機能を設定します。
  - パーソナル プロジェクト
  - Bulk Upload (一括アップロード)
  - グループウェアの統合

## アップグレード

- ナレッジディレクトリへの発行

これらの機能の設定については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

4. ポータルを再起動します。
5. Notification Service を開始します。詳細については、[4-24 ページの「Notification Service の開始」](#)を参照してください。
6. Collaboration を起動します。詳細については、[4-25 ページの「Collaboration の起動」](#)を参照してください。
7. [Collaboration Diagnostics] ページにアクセスして分析することによって、Collaboration が正しく機能していることを確認します。

`http://<your-collab-URL>:<your-collab-port>/collab/admin/diagnostic`

[Collaboration Diagnostics] ページの使用方法については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

8. 検索コレクションを再作成します。
  - a. ポータルの管理者として、ポータル コンピュータにログオンします。
  - b. [ **管理** ] をクリックします。
  - c. **Collaboration 管理**ユーティリティを選択します。
  - d. [ **Search Service** ] をクリックします。
  - e. [ **Rebuild Search Collection** ] をクリックします。
  - f. [ **OK** ] をクリックします。

# Exchange Remote API の インストール

この付録では、Microsoft Exchange との統合に使用する Exchange Remote API のインストール方法について説明します。

**注意：** Microsoft Exchange との統合は、Windows オペレーティング システムでのみサポートされます。

Exchange Remote API インストーラは、Collaboration インストーラの実行前に実行するか、Collaboration インストーラを実行して、ポータル データベースおよび Collaboration データベースのスクリプトを実行した後に実行することができます。

既に Collaboration インストーラを実行 ([**Collaboration: Advanced Features**] インストーラ画面の [**No Groupware Integration**] を選択) してグループウェアを統合しようとしている場合は、Collaboration インストーラを再度実行する必要はありません。その場合は、グループウェアの統合で使用する config.xml の設定を適切に変更します。config.xml でのグループウェア統合固有の設定については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

# Exchange Remote API インストーラの実行

この節では、Exchange Remote API インストーラの実行方法について説明します。  
Exchange Remote API は、Collaboration ホストまたは異なるマシン上にインストールできます。

**注意：** Exchange Remote API インストーラを実行する前に、Microsoft Exchange 統合へのシステムの準備を行う必要があります。詳細については、[4-2 ページの「Microsoft Exchange 統合へのシステムの準備 \(Windows のみ\)」](#)を参照してください。

Exchange Remote API インストーラを実行したら、IIS の設定を確認する必要があります。詳細については、[B-1 ページの「IIS の設定および確認」](#)を参照してください。

Exchange Remote API インストーラを実行するには、次の手順に従います。

1. インストール ファイル (ALIEExchangeRemoteAPI\_v1-0.exe) をダブルクリックします。
2. 次のインストーラ画面を実行します。

表 A-1 Exchange Remote API インストーラ画面

インストーラ画面	説明
Introduction	インストーラに関する基本情報を表示します。インストールを開始するには、[Next] をクリックします。
License Agreement	Collaboration をインストールするには、ライセンス契約書を読み、承諾する必要があります。ライセンス契約書を読み、適切なボタンを選択した後に、[Next] をクリックします。
Installation Folder	インストール フォルダを変更するには、[Choose] をクリックします。 [Next] をクリックします。
Select IIS Website	デフォルトの IIS ウェブ サイトに導入するかどうかを選択します。 [Next] をクリックします。

表 A-1 Exchange Remote API インストーラ画面

インストーラ画面	説明
Specify IIS Website Information	<p>[<b>IIS Website Name</b>]: IIS サーバーの URL。</p> <p><b>注意：</b> Collaboration のインストーラを実行する前に、Exchange Remote API のインストーラを実行する場合、Collaboration をインストールする際に入力する値と同じ値を入力する必要があります。</p> <p>[<b>IIS Website Port</b>]: IIS サーバーが要求を受け付けるポート。</p> <p><b>注意：</b> Collaboration のウェブ アプリケーションと、グループウェアの統合で使用する IIS の仮想ディレクトリが、異なるポート上で実行されていることを確認する必要があります。</p> <p>[<b>IIS Website Secure Port</b>]: IIS サーバーが保護された要求を受け付けるポート。</p> <p>必要な情報を入力した後、[<b>Next</b>] をクリックします。</p>
Pre-Installation Summary	インストール用のインストールフォルダおよびディスク スペースの要件を表示します。
Install Complete	インストーラが終了した後、インストールを完了するために、システムを再起動する必要があります。

## Exchange Remote API のインストール



# IIS の設定および確認

この付録では、Exchange Remote API をサポートするように IIS を設定および確認する方法について説明します。Exchange Remote API のインストールに関する詳細については、[付録 A 「Exchange Remote API のインストール」](#) を参照してください。

この節では以下の項目について説明します。

- [Windows 2003 における IIS 6.0 の設定および確認](#)
- [Windows 2000 における IIS 5.0 の設定および確認](#)

Exchange Remote API インストーラを実行する前に行うシステムの準備で実行する最初の手順は、IIS の設定です。システムの準備に必要なすべての手順については、[4-2 ページの「Microsoft Exchange 統合へのシステムの準備 \(Windows のみ\)」](#) を参照してください。

Exchange Remote API インストーラを実行したら、IIS の設定が適切であるか確認する必要があります。

# Windows 2003 における IIS 6.0 の設定および確認

この節では、IIS がポータル用に設定されていることを確認するためのインストール前後の手順について説明します。以下の項目について説明します。

- [IIS の設定](#)
- [IIS 設定の確認](#)

## IIS の設定

Exchange Remote API をインストールする前に、次の手順を実行します。Exchange Remote API をインストールするマシンの IIS を設定します。

IIS を設定するには、次の手順に従います。

1. IIS および .NET に対して最新のホットフィックスがインストールされていることを確認します。  
IIS がホスト コンピュータにインストールされていない場合、[ サーバーの役割管理 ] ユーティリティを使用して、役割としてアプリケーション サーバーを追加してください。これを行うことにより、IIS がインストールおよび設定され、ASP .NET を有効にすることができます。
2. WWW サービスが自動的に開始するように設定されていることを確認します。サービスを設定するためには、次の手順に従います。
  - a. [ **スタート | 管理ツール | サービス** ] をクリックします。
  - b. [ **World Wide Web Publishing Service** ] を右クリックし、次に、[ **プロパティ** ] をクリックします。
  - c. サービスが自動的に開始するように設定します。
3. .NET が IIS に登録されていること確認し、**.asmx**、**.aspx**、**.asax** アプリケーション拡張子が IIS ウェブ サイト用に設定されていることを確認してください。登録されているアプリケーション拡張子を確認するには、次の手順に従います。

## Windows 2003 における IIS 6.0 の設定および確認

- a. IIS マネージャーで、[Web サイト] を右クリックし、次に、[プロパティ] をクリックします。
  - b. [ホーム ディレクトリ] タブをクリックします。
  - c. [構成] ボタンをクリックします。
  - d. [Mappings] タブをクリックします。
  - e. [アプリケーションの拡張子] ボックスで、.asmx、.aspx、および .asax 拡張子がインストールされていること、および .NET 1.1 aspnet\_isapi.dll ライブラリを参照していることを確認します。  
 .NET が IIS に登録されていない場合、.NET Framework のインストールにある ASP .NET 登録ユーティリティを使用して、登録してください。次に例を示します。  

```
C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework\v1.1.4322\aspnet_regiis.exe -i
```
4. Windows 2003 では、ポータル コンポーネントは IIS 5.0 プロセス分離モードで実行されます。IIS 6.0 を IIS 5.0 プロセス分離モードに設定するには、次の手順に従います。
    - a. IIS マネージャーで、ローカル コンピュータを展開し、[Web サイト] を右クリックし、次に、[プロパティ] をクリックします。
    - b. [サービス] タブをクリックし、[IIS 5.0 プロセス分離モードで WWW サービスを実行する] チェック ボックスを選択し、次に、[OK] をクリックします。
  5. Collaboration で使用するウェブ サービス拡張に対する要求処理を設定します。ウェブ サービス拡張に対して権限を設定するには、次の手順に従います。
    - a. IIS マネージャーで、ローカル コンピュータを展開し、[Web サービス拡張] をクリックします。
    - b. コントロールを使用して、ASP .NET を設定し、要求処理を有効にします。
  6. 匿名アクセスを有効にするために、IIS のディレクトリ セキュリティにユーザー名 - パスワードのペアが設定されていることを確認します。
    - a. IIS マネージャーで、ローカル コンピュータを展開し、[Web サイト] を右クリックし、次に、[プロパティ] を選択します。
    - b. [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。
    - c. [匿名アクセスを有効にする] が選択されており、ユーザー名 - パスワードのペアが有効であることを確認します。

## IIS の設定および確認

**注意：** インストール後、セキュリティ方針に基づいて、セキュリティ設定を変更することができます。ポータルのセキュリティについては、『Deployment Guide for BEA AquaLogic User Interaction』および『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration』を参照してください。

## IIS 設定の確認

Exchange Remote API をインストールした後に、以下の手順を実行します。Exchange Remote API をインストールしたマシンの IIS の設定を確認します。

IIS の設定を確認するには、次の手順に従います。

1. ポータル ゲートウェイ フィルタ ( プラムツリー ゲートウェイ フィルタ ) がインストールされていることを確認します。ISAPI フィルタ スタックを表示するには、次の手順に従います。
  - a. IIS マネージャーで、ローカル コンピュータを展開し、[Web サイト] を右クリックし、次に、[プロパティ] をクリックします。
  - b. [ISAPI フィルタ] タブをクリックし、プラムツリー ゲートウェイ フィルタが、スタック内の ASP.NET フィルタの上にインストールおよび設定されていることを確認します。必要な場合は、スタックの順番を修正します。
  - c. IIS を再起動します。
2. .pt 拡張子のマッピングがポータル ウェブ サイトに追加されて、正しく設定されていることを確認します。拡張子のマッピングを表示するには、次の手順に従います。
  - a. IIS マネージャーで、[Web サイト] フォルダを展開し、ポータルの仮想ディレクトリを表示します。ポータルの仮想ディレクトリを右クリックし、次に、[プロパティ] をクリックします。
  - b. [ホーム ディレクトリ] タブをクリックします。
  - c. [Configuration] ボタンをクリックします。
  - d. [Mappings] タブをクリックします。

- e. [ 拡張子 ] ボックスで、**.pt** 拡張子が設定されていることを確認します。次に [ **編集** ] をクリックし、**.pt** 拡張子が、.NET 1.1 aspnet\_isapi.dll を参照しており、動詞リストに、GET、HEAD、POST、OPTIONS、PROPFIND、PROPPATCH、MKCOL、LOCK、UNLOCK、PUT、DELETE、COPY、および MOVE が含まれていることを確認します。

## Windows 2000 における IIS 5.0 の設定および確認

この節では、IIS がポータル用に設定されていることを確認するためのインストール前およびインストール後の手順について説明します。以下の項目について説明します。

- [IIS の設定](#)
- [IIS 設定の確認](#)

### IIS の設定

Exchange Remote API をインストールする前に、以下の手順を実行します。Exchange Remote API をインストールするマシンの IIS を設定します。

IIS を設定するには、次の手順に従います。

1. IIS および .NET に対して最新のホットフィックスがインストールされていることを確認します。
2. .NET が IIS に登録されていること確認し、**.asmx**、**.aspx**、**.asax** アプリケーション拡張子が IIS ウェブ サイト用に設定されていることを確認してください。登録されているアプリケーション拡張子を確認するには、次の手順に従います。
  - a. IIS マネージャーで、[ **Web サイト** ] フォルダを右クリックし、次に、[ **プロパティ** ] をクリックします。
  - b. [ **ホーム ディレクトリ** ] タブをクリックします。
  - c. [ **Configuration** ] ボタンをクリックします。

## IIS の設定および確認

- d. **[Mappings]** タブをクリックします。
- e. **[アプリケーションの拡張子]** ボックスで、**.asmx**、**.aspx**、および **.asax** 拡張子がインストールされていること、および **.NET 1.1** ライブラリを参照していることを確認します。

.NET が IIS に登録されていない場合、.NET Framework のインストールにある ASP.NET 登録ユーティリティを使用して、登録してください。次に例を示します。

```
C:\WINNT\Microsoft.NET\Framework\v1.1.4322\aspnet_regiis.exe -i
```

## IIS 設定の確認

Exchange Remote API をインストールした後に、以下の手順を実行します。Exchange Remote API をインストールしたマシンの IIS の設定を確認します。

IIS の設定を確認するには、次の手順に従います。

1. ポータル ゲートウェイ フィルタ ( プラムツリー ゲートウェイ フィルタ ) がインストールされていることを確認します。ISAPI フィルタ スタックを表示するには、次の手順に従います。
  - a. IIS マネージャーで、ローカル コンピュータを展開し、**[Web サイト]** を右クリックし、次に、**[プロパティ]** をクリックします。
  - b. **[ISAPI フィルタ]** タブをクリックし、**プラムツリー ゲートウェイ フィルタ**が、スタック内の **ASP.NET** フィルタの上にインストールおよび設定されていることを確認します。必要な場合は、スタックの順番を修正します。
  - c. IIS を再起動します。
2. **.pt** 拡張子のマッピングが、ポータル仮想ディレクトリ用に設定されていることを確認します。拡張子のマッピングを表示するには、次の手順に従います。
  - a. IIS マネージャーで、**[Web サイト]** フォルダを展開し、ポータルの仮想ディレクトリを表示します。ポータルの仮想ディレクトリを右クリックし、次に、**[プロパティ]** をクリックします。
  - b. **[ホーム ディレクトリ]** タブをクリックします。
  - c. **[Configuration]** ボタンをクリックします。

## Windows 2000 における IIS 5.0 の設定および確認

- d. **[Mappings]** タブをクリックします。
- e. [アプリケーション拡張子] ボックスで、**.pt** 拡張子がインストールされていることを確認してください。[編集...] をクリックし、**.pt** 拡張子が、**.NET 1.1 aspnet\_isapi.dll** ライブラリを参照しており、動詞リストに、GET、HEAD、POST、OPTIONS、PROPFIND、PROPPATCH、MKCOL、LOCK、UNLOCK、PUT、DELETE、COPY、および MOVE が含まれていることを確認します。

## IIS の設定および確認



# サイレント プロパティ ファイル

Collaboration のインストール時、インストーラによって、Collaboration がインストールされるディレクトリに **AquaLogicInteractionCollaboration\_<version>\_silent.properties** ファイルが作成されます。あるコンピュータ上でプロパティ ファイルを作成した後に、他のコンピュータ上で Collaboration をインストールする際は、このファイルを再利用することができます。これにより、インストール プログラムを使用するたびに導入情報を再入力する必要がなくなります。「サイレント」インストール時、インストール ダイアログで必要になる情報がプロパティ ファイルから読み込まれます。

サイレント インストールは、コマンドラインから以下のように実行できます。

```
<full_Path_To_Installer>/ALICollaboration_<version> -f  
<full_Path_To_Properties_File>/AquaLogicInteractionCollaboration_<version>  
.properties
```

例：

```
<full_Path_To_Installer>/ALICollaboration_v4-2 - f  
<full_Path_To_Properties_File>/AquaLogicInteractionCollaboration_v4-2_silent.properties
```

サイレント インストールは、同じ仕様になるように製品をマシンに配布する場合に有効です。

## サイレント プロパティ ファイル

# 索引

## 記号

.NET

インストール 4-2

## B

Bulk Upload (一括アップロード)

インストーラの設定 4-12

## C

Collaboration

起動 (UNIX/Linux) 4-25

起動 (Windows) 4-25

ホスト コンピュータ要件 2-2

Collaboration データベース

作成 4-3

設定 4-16

Collaboration6.pte

インポート (Windows) 4-21

インポート (UNIX/Linux) 4-23

## E

Exchange

統合 4-12

統合へのシステムの準備 4-2

統合要件 2-3

## I

IIS

設定 B-1

## N

Notification Service

開始 (UNIX/Linux) 4-24

開始 (Windows) 4-24

## O

Oracle

Collaboration データベースの作成 4-4

アップグレード 5-5

インストーラの設定 4-8

設定 4-18

## P

Project

統合要件 2-3

PT\_HOME 例 3-5

## S

SQL Server

Collaboration データベースの作成 4-3

データベースの作成 4-3

設定 (2000) 4-17

設定 (2005) 4-18

SQL Server データベース

アップグレード 5-6

## W

Web Services Enhancement 2.0

インストール 4-2

WebDAV 4-12

WebEdit 4-12

## あ

アップグレード手順

Windows 5-1

## い

移行パッケージ

インポート (UNIX/Linux) 4-23

インポート (Windows) 4-21  
インストーラ画面  
Collaboration 4-5  
Exchange Remote API A-2

設定 4-16

よ  
要件 2-1

く  
グループウェアの統合  
Exchange 4-12  
Lotus Notes 4-13  
対応サーバー 2-3

し  
[ 診断 ] ページ パス 5-8

す  
スクリプト  
場所 (SQL Server) 4-16

そ  
ソフトウェア  
最低要件 2-2

て  
データベース サーバー  
ホスト コンピュータ要件 2-2  
デフォルトのインストール フォルダ 4-6

と  
ドキュメント 1-3

は  
ハードウェア  
最低要件 2-2

ふ  
ブラウザ要件 2-3

ほ  
ポータル データベース